

3年生学年便り

平成 27 (2015)年 6 月 5 日

第 1 4 号

吹田市立第二中学校第三学年

平和学習「ひめゆりの塔」をみて

今週水曜日、1、2 時間目を使って、修学旅行で訪れるひめゆり平和祈念資料館に展示されているひめゆり学徒についての映画をみました。

今回、映画「ひめゆりの塔」を見たことで、修学旅行で、アブチラガマ、ひめゆり平和祈念資料館を実際に訪れたとき、いろいろな思いが胸によぎるのではないのでしょうか。当たり前前毎日過ごせる幸せ、平和の尊さに改めて思いをはせて欲しいと思います。みんなの感想の一部を紹介します。

この映画を見て思ったことは、みんな集団自決をするのもわかるなあということです。なぜなら、当時の人たちは、アメリカはとっても残酷だと教えこまれていると思うからです。

それに、こんな地獄を生きて、それ以上生きたいと思わないと思うからです。自決することはいけないことだし、そこから逃げるとのことだけけど、僕がこの時代に生きていたら、おそらく逃げていると思います。それでも、そんな場所で生きようと思った人たちは、とっても強い心を持っているんだなと思いました。それで、実際に生きている人はすごいと思いました。今でも沖縄戦を体験して、このことを忘れずに生きている人たちに尊敬します。

日本軍のあきらめの悪さのせいで、戦争に行きたくない生徒もまきこぶ学徒出陣が起り、アメリカ軍に対しての変なうわさのせいで助かるはずの命をおとしてしまって、この時代の日本の戦争は国民の意見も聞かずに上官の言うことだけ聞いて、とても悲しいと思いました。

また、もしぼくがこの時代の沖縄に暮らしていたとしたら、まず、上官の命令も聞きながら、自決しないで生き延びたいです。そしてアメリカ軍の言葉を聞いて、助かる道があるとしたらもう逃げ回ってつらいと思うので助かるためにアメリカ軍の言葉を信じると思います。

戦争によって、大人だけでなく罪もない子ども巻き込まれたんだなと思った。戦争は、人を殺すだけでなく、人の感情をおかししたり、今までの当たり前だったことを壊したりするんだなと思った。

アメリカ軍が助けるから出てこいといったら、自分だったら出て行くけど、当時の人たちは助けてもらうくらいなら自決するところがある今この時代に生きている自分からしたらあり得ないと思ったし、戦争によって教育も変わってたんだなあと改めて思った。

戦争は、悲惨なものだと再確認しました。途中の壕の中にいた学徒隊と先生が毒ガスで殺されてしまったシーンがとても印象的でした。毒ガスで目が見えなくなってしまう先生が、生徒の呼びかけにこたえようと声をかけ、必死に手を伸ばし、手が合わさったところで 2 人とも息絶え、最後まで先生と生徒が生き抜いたその生き様に胸を打たれました。

もし私が、この時代の沖縄に暮らしていたら、どんな生き方をしたのか想像もつきません。しかし、きっと映画の登場人物と同じように、強い意志を持ってたくさん思いを抱えながら、必死に生きているだろうと思います。

学生で、まだ大人じゃない人たちが看護師として働かなければいけなかったのはとてもつらいと思った。次々に大事な人たちが亡くなっていくのを間近で見ることはとてもかわいそうに思えた。

食糧を確保するのも命がけて、今、私たちが食べ物簡単に食べられてることは、どれだけ幸せか身にしました。もし私が、この時代に生きていたら、この時代の女性たちみたいに勇敢に生きられなかった。すぐに弱音を吐いていたと思う。だから、この時代に生きていた人は、本当に心が強いと思った。

当時はまだ若い女の子で、とても僕たちじゃできないような事をやっていたので、とてもつらかったらうなあと思ったし、もし、今の自分だったらこわくて逃げ出していたと思うが、あんな過酷の中やりとげたのはすごい。また、沖縄のおじいさんが言っていたように日本軍が国民を守らずにじゃまだとか、沖縄弁をしゃべったとかで同じ日本人を殺すのはおかしい。

戦争で殺し合っている事でもおかしいのに自分の国民を守らないのは無責任だ。こんな時代にもし自分が生きていたらふじんな国を恨んでいたと思う。また、あの女の子たちのように過酷な環境でたくましく生きれる自身もない。やはり、平和は大事だと思った。この世の中をずっと維持することが大事だ。

まず、映画を見ながら考えていたことは、戦争に行く男の人だけではなく、戦争でけがをした人の手当をする女の子もとても苦しい思いをしていたんだということです。

私たちは、戦争のことを学ぶとき、どうしても戦争に行く人の立場になって考える事が多くあります。でも、その時同じ場所で男の人たちを支えている人たちを見ていたら、私はとても胸が締め付けられました。となりで、どんどん仲間が死んでいく中、私はとても生きようとは思えません。集団自決したほうが楽になると考えると思います。

でも、みんなで生きのびようがんばる人たちを見ていて、命は粗末にしてはいけないなど改めて思いました。そして、このようなことは、二度と繰り返さない、繰り返してはいけないと思いました。

沖縄に修学旅行で行くけれど、「楽しかった。海がきれいかった。」という感想だけで終わらしてしまうのはダメだと思いました。沖縄に行ったときは、いろんなことを感じて大阪に帰ってこられるようにしたいと思います。

自分が大人になって、子どもができたときに、自分は体験していないけれど、どんなことがあったのかどうかは、自分が伝えていくことが大切だと思います。戦争の中にいるときは、生きていることがつらい、死ぬこともつらいと思いました。戦時中に、生きている人がどれだけしんどかったかを考えると、今の自分はしんどいしんどいと弱音ばかり吐いている場合じゃないと思いました。もっと考えて、行動しようと思いました。

大切な友達、家族、先生、ペットが死んでしまって自分だけが生き延びているのは本当につらいと思う。自決したくなるのもわかる。

けど自分なら死ぬかも知らんけど、逃げ続けたいし、後生に伝えていかんとあかんと思う。

日本軍もこの時は人の命の大切さがわかっていなかったと思うから命の大切さ、大きさを十分に理解して生きていくことができれば戦争も殺人もおこらないと思うので命は大切にしようと思った。

私たちは、それぞれの思いを胸に、来週沖縄へと出発します。

